

## 『発達障害の病態解明へ：

## 基礎と臨床をつなぐ研究最前線』

日時：2023年7月20日（木） 10:30～16:20

場所：千里ライフサイエンスセンタービル 5F 山村雄一記念ライフホール(WEB配信併用)

## 開催趣旨：

自閉スペクトラム症を代表とする発達障害は、社会的コミュニケーションの困難、限定的な興味やこだわり行動を特徴とし、約100人に1人に認められるとされる。頻度が高く増加傾向にあるため、病態を理解し支援につなげることが、ますます求められている。本シンポジウムでは、発達障害の病態に迫る基礎・臨床研究の最前線を紹介する。動物・細胞モデルから得られた基礎的知見と、大規模データベースの構築と人工知能技術の適用も含めて、臨床現場から明らかになった最新知見を紹介し、残された今後の課題についても議論したい。

演題・演者（\*コーディネーター）

10:35-10:50 「はじめに」

川人 光男\* 国際電気通信基礎技術研究所（ATR）脳情報通信総合研究所 所長

10:50-11:30 「マウス・細胞モデルからの発達障害の病態解明」

内匠 透 神戸大学大学院医学研究科 生理学分野 教授

11:30-12:10 「発達障害の理解に向けて：分子と行動を繋ぐアプローチ」

石田 綾\* 理化学研究所 脳神経科学研究センター 脳発達病態研究チーム チームリーダー  
-昼食-

13:20-14:00 「マウスにおける養育・社会行動のオキシトシンによる制御」

宮道 和成 理化学研究所 生命機能科学研究センター  
比較コネクトミクス研究チーム チームリーダー

14:00-14:40 「脳回路マーカーからみる発達障害：疾患横断性と異種性の理解に向けて」

橋本 龍一郎 東京都立大学人文社会学部人文科学研究科 教授  
昭和大学発達障害医療研究所 客員教授

-休憩-

14:50-15:30 「社会的コミュニケーションの障害の分子病態解明と治療薬開発」

山末 英典 浜松医科大学精神医学講座 教授

15:30-16:10 「発達障害の病態解明を目指して

～自閉スペクトラム症（ASD）の臨床からみえてくるもの～」

加藤 進昌 公益財団法人神経研究所 理事長、東京大学・昭和大学名誉教授

16:10-16:20 「おわりに」

石田 綾\* 理化学研究所 脳神経科学研究センター 脳発達病態研究チーム チームリーダー

■参加費：無料 ■定員：会場参加100名、WEB参加500名

会終了後、交流会（名刺交換会）を開催します。是非、会場にお越し下さい。

■申込方法：参加希望者は、当財団ホームページの「参加申込・受付フォーム」からお申込み下さい

■お問い合わせ：千里ライフサイエンスセミナーV2事務局

E-mail:dsp-2021@senri-life.or.jp

TEL：06-6873-2006



主催：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

参加申込フォーム

後援：バイオコミュニティ関西